

WAO! 輪を



【わ・リレーコラム】

第23走者は！・・・泉佐野泉南医師会 理事

泉佐野市・ゆたかクリニック 貴志 豊先生です。



当院通院中のアルツハイマー病患者さんの体重変化を調べてみました。平均年齢72歳の女性アルツハイマー病患者さん28人と、ほぼ同年齢の健常女性28人を最長12年間にわたり追跡調査しました。

アルツハイマー病患者では平均0.7kg、健常者は0.8kg、それぞれ体重が減少していました。これだけではアルツハイマー病の特徴がわからないのですが、最初の体重から5%以上の変動を認めない体重維持例は、健常者では57%でしたが、アルツハイマー病ではわずか25%でした。言い換えれば、アルツハイマー病の4人のうち3人は5%以上の体重変動を認めたこととなります。つまり、極端にやせたり、太ったりする人が多いことがわかりました。アルツハイマー病患者は、自己管理、つまり自分を守る能力が衰えていきます。その一つが体重の増減として現れるのだと考えています。治療ケアに際して我々は体重変動にも十分留意することが必要です。

【医師会の活動報告について】

平成29年度 日本脳卒中協会「サノフィ賞」を受賞いたしました。

日本脳卒中協会「サノフィ賞」は、脳卒中患者・家族に対する教育・訓練・社会参加への支援活動を促進するための活動に貢献した個人あるいは団体を選定し顕彰するものです。

今回、当医師会理事の新山一秀先生を中心に泉佐野保健所、泉佐野市、熊取町、田尻町、泉南市、阪南市、岬町とで結成した、泉州脳卒中予防チーム「備長炭」が、心房細動患者を早期発見し、適切な脳梗塞予防に繋げることを目的に、国保特定健診による心房細動のスクリーニング（心電図検査や脈拍不整のチェック）、抗凝固療法が可能な医療機関リストの作成と心房細動疑い患者への受診勧奨、地域住民を対象とする講演会の開催、多職種在宅医療関係者を対象とする研修会の開催などの活動が日本全国に拡げられるモデルとして評価され、啓発部門で表彰されました。



泉佐野泉南医師会・圏域の行政の方々と脳卒中予防活動を始めて、この9月でまる三年になります。医師会と行政が協力して脳卒中予防事業に取り組むこと、それを多職種に広げることがご評価をいただきました。先日、受賞報告で千代松泉佐野市長と面会し、心房細動の最も多い後期高齢者に市民健診として（便Hb検査のように）心電図検査の導入をお願いしました。今後も皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

救急災害担当理事 新山一秀

「今月のWAO!さん」からのメッセージ

【阪南市西鳥取・下荘地域包括支援センター】熊抱 潤さん

こんにちは！認知症、生活困窮、老老介護・・・後ろを向きたくなるような言葉ばかりですが、地域からはたくさんの相談が入ってきています。

誰にも相談ができず、ひとりで抱え込み、果てに虐待、孤独死・・・。

「あれ？この人、大丈夫なんかな？どんな生活をしているんだろう？」

どんなささいなことでも、その“気づき”がきっかけで早期発見・早期対応につながり、支援の「わ」が広がります。地域包括支援センターは“総合相談窓口”です。WAOのみなさんからの気軽なお声かけをお待ちしています♪